

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571500366		
法人名	医療法人 竹内医院		
事業所名	グループホーム 夜市のんた		
所在地	山口県周南市夜市720-1		
自己評価作成日	平成24年9月18日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

福祉と医療が一体となり、認知症の方がその人らしく、いきいきと暮らしていただけるように取り組んでいます。また、個別の生活パターン・ペースを尊重し、お一人おひとりと深い関わりを保つよう努めています。地域の方々や幼稚園、小学校とも年中を通して行事等を中心として日常的に交流を持たせていただいております。事業所としては周南市認定のAED設置施設として地域の方々の安心の場としての役割も担っています。経営母体が医療機関なので、緊急時の対応や毎日の往診があり安心して日々の生活を送っていただけます。また、ターミナルケアも段階に応じ行なっております。当グループホームにおいては山口県実習施設として委託をうけており、実践者研修や実践リーダー研修など年間を通して多くの方が実習に来られることで、入居者との交流や職員の研修の機会になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の医療機関による訪問診療があり、事業所の看護師と法人の訪問看護が連携され、緊急時の対応が適切に行われる他、ターミナルケアにも取り組んでおられ、利用者や家族の安心につながっています。地域の人との交流にも積極的に取り組まれ、今年度は地域の人を呼んでのお茶会やお泊り会を開催され、舞踊の披露など地域の人との交流に取り組んでおられます。利用者の生活歴を把握され、趣味や嗜好品を希望に合わせて支援され、利用者の楽しみや張合いに繋げておられます。職員間のチームワークが良く、働きやすい環境づくり、協力体制ができており、利用者本位のケアに全職員で取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所として掲げている理念に則り、月1回の定期カンファレンスや日々の業務の中で連携を取りながら、ホーム理念の再確認、ケア、業務の見直し、改善等行なっている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、理念に沿ったケアができるように話し合い、共有して、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム職員は日常的に地域の方々との交流を持ち、行事等を中心に利用者と地域を結ぶ架け橋作りに努めている。また、地域行事にも積極的に参加している。	自治会に加入し、小学校の運動会や夜市盆踊り、敬老会に参加して地域の人と交流している。事業所の「夜市のんた祭り」では企画から地域の方の参加や協力があり、法人の足湯コーナーを開放して交流する他、今年は事業所に地域の人を招いてお茶会を開催し、琴演奏等を行うなど地域とのつながりを深めるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の老人会やボランティアの方々に必要な時施設の見学や活用、地域との交流の場として施設の開放をしている。また、認知症に関する勉強会などを企画し、地域の方々や学生、子供たちにも参加を呼び掛けている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者、職員は自己評価を考え話し合う機会を設け、外部評価を受けることで日々のケアや業務などの改善の機会としている。また、評価後にカンファレンスを開き、改善点など確認し、今後活かしていけるよう取り組んでいる。	評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組み、振り返りや見直しの機会としている。評価を活かして、全職員による災害時の避難方法の周知徹底など、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域の方々、介護相談員、市職員、地区警察署員、家族などが参加し事業所が行なっている様々な行事や取り組みを報告する機会としている。会議のメンバーの方々にも事業所の行事など参加してもらう機会を持っていただいている。	今年度は、新たに駐在所職員や近隣のグループホームの職員の参加があり、年6回開催している。行事報告、活動報告、市からの報告などがあり、意見交換している。駐在所の見回りコースとなり安全、安心に繋がるなど、サービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの介護相談員を受け入れている。また、必要に応じて市の担当者と情報交換を行いサービスの向上に役立っている。	市担当課と連携を図り、情報交換を行いケアサービスの取り組みを積極的に伝え、協力関係を築いている。市の介護相談員を受け入れている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会で学ぶ機会を設けている。また事業所内は自由に行き来できるようにしており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について研修会等で学び、職員は理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。日々のケアの中で、言葉かけに配慮している。事業所は2階にあり、1階の玄関は安全のため施錠しているが、利用者の希望に合わせて外出できるように工夫している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で学ぶ機会を設け、管理者及び職員が共通理解した上で日々のケアに取り組んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があると考える利用者がおられる場合に家族、及び関係者と相談し、アドバイス等行なっている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時に契約に関する説明の機会を必ず設け、不安や疑問点の解消に努めている。また、面会時や家族会等の機会にも必要に応じて説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付体制について明示し、利用者および家族から苦情が出た場合、定める苦情相談窓口や第三者機関を通して、定例カンファレンスの機会や、家族会、運営推進会議等にて検討する機会を持つようになっている。	苦情の受付体制、処理手続きを定め周知している。家族会や運営推進会議時、面会時、お泊り会等で家族の意見を聞いている。家族からの意見や要望は個別の申し送りノートに記録し、全職員で共有し、検討して運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期カンファレンスなどを開き意見を聞く機会を設けている。また、日頃から職員の意見や提案を聞く機会を持つよう努めている。	定期カンファレンス時や日々の業務の中で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員からの意見で、地域の人を事業所に招いてお茶会を開催し、地域交流につなげるなど、意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤労実績等を把握し、個々が仕事に対する向上心を持って働けるよう能力に応じて環境や条件の整備を行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員に対し医療的な知識やより高度な介護に関する情報を得る為、勉強会や研修へ参加する機会を積極的に与えるとともに、資格取得の為の知識・技術習得支援の機会を設け、職員がより高いレベルに到達できるよう努めている。	外部研修への参加の機会を確保する他、山口県宅老所・グループホーム協会等の勉強会にも参加して、受講後は復命している。内部研修を実施し、資格習得の支援もするなど、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は山口県宅老所・グループホーム協会に加入し、周南市西部地区や光・下松地区のグループホームでの勉強会など他グループホームとの交流を大事にしており、かつ定期的にその機会を持っている。また、医師会主催の医療・介護に関する勉強会に積極的に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の面接時から利用者の求めている事を聞く機会を作り、入居後も生活の変化に配慮できるように利用者との信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込を受けた時点から入居まで定期的にご家族に連絡をすることで、家族の思いや悩み、困っている事などを聞く機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み者及び利用者の現状を考慮し、適切なサービス利用が受けれるように相談に乗っている。また、申込者の緊急性に応じて柔軟な利用案内の連絡を行っている。その他、必要に応じて同事業所内の介護サービスの紹介や他グループホームの紹介などを行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の生きてきた経緯を把握した上で、本人の気持ちを大事にし、その方のできることで、できなくなったことに対して、さりげない支援に努めている。また、昔の暮らしや生活の知恵など教えてもらったりとお互いに支え合う関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に利用者の現状を理解してもらった上で、出来る限りこれまでの暮らしが継続できるように、家族と共にできることを考え、利用者を支えていくよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談し、なじみの場所や人との関係が途切れないよう、お盆や正月などの家庭の年中行事や地区行事への利用者の参加を促し、ご家族と相談し必要があれば職員も付き添うよう努めている。	馴染みの理美容院の利用、地域の敬老会や盆踊りへの参加、家族の協力を得ての外出や外泊など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの気持ちを尊重し、利用者同士が支えあえるように努めている。耳が遠い方、思いや気持ちを伝えることが難しい方など職員が間に入り利用者同士の関わりの橋渡しを行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナル期の関わりから葬儀、法事まで利用者ご家族と共に関係を継続的なものに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、ご本人やご家族から得た情報を生活の中に活かし、ご本人本位の暮らし方や思いを大切にしている。	センター方式のシートを活用する他、日々の生活の中での希望などを経過記録に記入し、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は利用者本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までの生活歴やなじみの暮らし方をご家族及び関係者から面会時の会話や生活歴シートを活用することで情報収集し把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や心身の状態を細かに記録し、その人の生活リズムやできること、できないこと等現状の把握に努めている。また、利用者の生活リズムに合わせた食事時間、入浴時間などに対応している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との会話や行動からケアのあり方について考えている。また、ご家族やその他関係者から情報収集し介護計画に反映するようにしている。	本人や家族、主治医、関係者の意見や要望を参考に、経過記録で把握した情報を交えて話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングを行う他、利用者の状況に応じて見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を使用した日々の記録や定例カンファレンスの場を活用し、利用者の情報を見直し全職員が情報を共有することによりケアの改善を行なっている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療母体及びその他の介護サービスもあり、必要に応じた対応ができるよう努めている。その他、医師による毎日の往診や訪問看護や他の事業所の利用者、職員とのなじみの関係づくりを行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア(体操、公文)等と協力し、利用者の余暇生活の充実に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医をご家族、本人から聞き入れ、円滑に支援が受け入れられるよう要望を聞き入れている。また、必要に応じてかかりつけ医の受診に付き添い適切な医療が受けられるよう支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関の週1回の訪問診療があり、法人の訪問看護による医療連携を築いている他、専門医への受診を支援するなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療母体である医院の看護師やホーム内の常勤看護師が日常的に利用者に関わっている為、日常の変化や状態などを密に相談できる環境にある。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、医師及び看護師と連絡調整を取りながら早期退院ができるよう努めている。また、職員がこまめに面会に行くことにより利用者の不安や変化など現状把握し、退院後のケアに繋げている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、利用者、その他関係者と相談しながら終末期をどのように過ごすかということを密に話し合い、ご本人や家族の希望を叶えられる体制を整えている。	重度化や看取りの指針を作成し、入居時に家族に説明している。本人や家族、かかりつけ医、関係者で話し合い、方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	各種マニュアルを揃えている。また、個別の事故防止方法を職員で話し合い、そのことが職員全体に行き届くよう定期的に検討する機会を設けている。	マニュアルがあり、ヒヤリハット報告書、事故報告書に記録して、対応策を検討し、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。AEDを設置し訓練を実施する他、看護師による応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	発生時のマニュアルを整えており、緊急連絡網や協力体制など地域との連携も取れている。また、年1回消防機関を招いて夜間想定避難訓練、消火訓練、緊急通報連絡訓練の実施を行っている。	消防署の協力を得て、夜間想定避難訓練、消火訓練を行っている。緊急システムの連絡網に地域住民が入っており、訓練にも参加して協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしくを最優先に考え、利用者に精神的なダメージが最小限になるようケアに取り組んでいる。また、様々な変化を捉え誇りやプライバシー、機嫌を損ねることがないように努めている。	一人ひとりの人格を尊重し、その人らしく過ごせるように、誇りやプライバシーを損ねないケアや言葉かけに努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位ではなく、あくまで利用者の方の力を大事にし自己決定の機会がひとつでも増えるよう取り組んでいる。また、自分の希望を思うように伝えられなくなった利用者に対し、伝えることができていた段階の思いや表情や仕草などから読み取れる本人の思いをご家族と話し合いながら支援をしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に無理強いをするのではなく、その人にあったペースで支援していけるよう努めている。本人に合った食事時間、場所の提供、希望に合わせた入浴時間の提供。希望の外出先やなじみの外出先への支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームで利用している理美容室を継続してなじみの関係が築けるよう支援している。また、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう家から好みの服や小物を持ってきてもらっている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を大切に、好き嫌い、アレルギーなどに考慮しその場でも対応できるように体制を整えている。また、職員は利用者と同じ食事を共にすることで味覚の共有ができるように努めている。また、配膳や片付けなど一緒に行っている。	昼食、夕食は法人の厨房からの配食を利用し、朝食は事業所で調理している。利用者は、配膳や片づけを職員と一緒にしている。一人ひとりの状況に応じて刻み食、とろみ食等管理栄養士の指導を受けながら支援している。職員は利用者と同じ食卓を囲み、食事介助や会話をしながら食事を楽しむことのできる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの生活習慣に合わせた状態を把握し、食事や水分の確保できるような支援に努めている。また、糖尿病患者の対応等、管理栄養士の指導を受けて支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりに合った口腔ケアの方法を実施しており、また困難な事例の場合にはその都度、通院及び往診により歯科医の処置、指導を受けている。歯ブラシや義歯は常に清潔を保てるよう清掃、保管している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の記録を用いて、利用者の排泄パターンや習慣を活かせるよう支援している。また、必要に応じて居室にポータブルトイレを置くなど、その人に合わせて排泄環境を検討・工夫し整えている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄パターンとリズム及び生活習慣を見直す機会を設けている。また、体操をして体を動かしたり、飲食物への工夫等、出来る限り薬に偏らない働きかけに努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間を定めておらず希望に添えるよう入浴できるよう支援している。また、体調不良で入浴できない場合にもリラックスしてもらえよう希望や必要に応じて足浴を行っている。	一人ひとりの希望や状況に合わせて毎日、入浴を楽しむことができる支援をしている。利用者の状況に合わせてベッド上での足浴、清拭、法人内の特浴での入浴支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドだけでなく畳に布団を敷くなど利用者の生活習慣を大切に、生活リズムに合った睡眠時間の支援を行っている。また、個別の居室内環境についてご家族への協力も呼び掛けながらリラックスしてくつろげる空間づくりを定期的に検討している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬管理を行っており、日常服薬する薬及びその他の服薬に関し、副作用や効用など把握できるよう努めている。お薬手帳の整理、処方された薬剤情報表の管理や医師及び薬剤師への確認を行っている。また、症状の変化に応じて医師へ服薬の相談を行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を把握した上で、利用者一人ひとりに合わせた場面作りに努め、散歩や買い物など楽しみごとや気晴らしの支援が出来るよう取り組んでいる。	買い物、配膳、下ごしらえ、片づけ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、手すり拭き、ラジオ体操、ドライブ、書道、編み物、ルアーづくりなど活躍できる場面づくりや楽しみごと、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者のこれまで生活してきた地域への外出や定期的な帰宅や家族の元へ帰れる支援などを行っている。また、個別で外出など利用者の希望に応じられるよう外出先を限定せず出かける機会を提供している。	日常的な散歩、買い物、理美容院の利用、外食、桜見、紅葉巡り、ドライブ、家族とのお泊り会等戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な利用者には金銭の管理ができるよう支援している。また、外出時には金銭を渡し利用者ができる限り自己決定ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームでは希望があった際、ご家族やその他関係者に電話や手紙などで連絡が取れるよう体制を整えており、利用者一人ひとりに合った支援ができよう努めている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光を十分に取り入れ、それぞれが落ち着ける椅子やソファを置き、テーブルには季節の花を飾るなど、利用者にとって過ごしやすい生活環境になるよう工夫している。特に、台所、トイレ、浴室等においては臭いや汚れによる不快感を与えないよう配慮している。	リビングには大きな天窓があり、明るく、換気にも配慮している。テーブルには季節の花が活けてあり、利用者はソファで本を読んだり、テレビを観ながらくつろぐなど、居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	慣れ親しんだ場所及び安心できる空間を提供している。なじみのソファやテーブルなどを用いて、それぞれが思い思いに過ごせるよう工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の活用や希望に応じて畳を敷く等、利用者の慣れ親しんだ居室を保つことで安心して過ごせるよう支援している。また、入居時に利用者及びご家族から利用者にとってのなじみの空間を作る大切さを話し合っている。	使い慣れたダンスやテレビ、寝具、加湿器、希望により畳を敷くなど、利用者一人ひとりの好みや希望にそって、居心地良く安心して過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの「できる」「わかる」力を把握し、個別の状態に応じた工夫によって、可能な限りその人らしく自立した生活を送れる環境を整えている。		